

## 報告書（2012年4月）

### 1. 遺伝子組換え食品添加物

○安全性審査が終了し公表された遺伝子組換え食品及び添加物リスト

（16品目、2012年4月25日現在） <http://www.mhlw.go.jp/topics/idsenshi/dl/list.pdf>

○安全性審査が終了した遺伝子組換え食品及び添加物リスト

（46品目、2012年4月5日現在） <http://www.mhlw.go.jp/topics/idsenshi/dl/list3.pdf>

○安全性審査継続中の遺伝子組換え食品及び添加物リスト

（3品目、2012年4月25日現在） <http://www.mhlw.go.jp/topics/idsenshi/dl/list2.pdf>

### 2. 未審査の遺伝子組換え食品添加物

1) 昨年12月5日、①CN01-0118株を利用して生産された5'-イノシン酸二ナトリウム、②KCJ-1304株を利用して生産された5'-グアニル酸二ナトリウムについては、遺伝子組換え審査の手続きを経ず流通していたことが判明した（厚労省の報道）

2) 昨年12月20日、BASFジャパン株式会社に対し、遺伝子組換え審査の手続きを経ず販売していたリボフラビンの輸入・販売を取りやめるよう指示した（厚労省の報道）。

3) 昨年12月21日、BASFジャパン株式会社に対し、遺伝子組換え審査の手続きを経ず販売していたキシラナーゼの輸入・販売を取りやめるよう指示した（厚労省の報道）。

4) 本年4月17日、協和発酵バイオ株式会社に対し、BASFジャパン株式会社に対し、遺伝子組換え審査の手続きを経ず販売していたL-フェニルアラニンの販売自粛を指示した（厚労省の報道）。

この問題については、さらに品目が拡大する可能性があります。

### 3. 食品添加物の新規指定

現在、香料4品とサッカリンカルシウムが指定待ちとなっています。

4月24日、内閣府食品安全委員会添加物調査専門委員会で、国際調和品目である酢酸カルシウム及び酸化カルシウムに係る食品健康影響評価が行われました。

### 4. 消費者庁・食品表示一元化

本年4月18日、三田共用会議所にて、消費者庁の第7回食品表示一元化検討会が開催されました。中間論点整理に対する食品関係事業者と消費者団体からの意見交換会での意見等を反映した論点整理（案）が消費者庁から提示されましたが、議論が進まず5月11日に再度検討することとされました。

### 5. 食品の放射能問題

1) 規制（新たな規制値） 食品衛生法

飲料水：10Bq/kg、牛乳：50Bq/kg、乳児用食品：50Bq/kg、一般食品：100Bq/kg とする新しい規制が、本年4月1日から施行されました。これに伴い、EU、韓国は、4月1日から、日本からの輸入食品は日本の基準に一致させるとのことです。諸外国もその方向だと推測します。

2) 出荷制限 (2012年4月27日 現在) 厚生労働省

福島県、茨城県、栃木県、千葉県、群馬県、宮城県、岩手県で、新たな出荷制限が行われることになりました。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000029j5n-att/2r98520000029jc8.pdf>

3) 検査結果 (3月30日 現在) 厚生労働省 第378報

宮城県産イワナ(210Bq/kg)、宮城県産ウグイ(170Bq/kg)、宮城県産タケノコ(150Bq/kg)、茨城県産アメリカナマズ(天然)(120Bq/kg)、栃木県産カワマス(110~200Bq/kg)、栃木県産クサソテツ(コゴミ)(480Bq/kg)が基準を超過しました。

また、緊急時モニタリング又は福島県の検査結果では、クサソテツ(コゴミ)(150~700Bq/kg)、ゼンマイ(1100Bq/kg)、タラの芽(400~590Bq/kg)、ワラビ(110Bq/kg)、タケノコ(250Bq/kg)が基準を超過しました。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000029in1.html>

4) 流通業界等の独自基準に対して、農林水産省が通知

流通業界等で、「一般食品で25Bq/kgのような国の新基準よりもさらに厳しい独自の基準を設け、それを上回る食品は店頭には置かない」といった対応を取る企業が増えている。これは、国・行政を消費者が信用していないことが原因であると思われるが、農林水産省は、「食品中の放射性物質に係る自主検査における信頼できる分析等について」(24食産第445号 平成24年4月20日 農林水産省食料産業局長)を出し、国の基準で規制することを求めました。

(省略) 食品衛生法に基づく基準値は、放射性物質を含む食品からの被ばく線量の上限(介入線量レベル)を食品の国際基準を策定するFAOとWHOの合同会議であるコーデックス委員会の指標である年間1ミリシーベルトに合わせる一方で、算定の際の一般食品の汚染割合を50%とし、コーデックス委員会ガイドライン(10%)より厳しい前提が置かれ、さらに特別な配慮が必要な飲料水や乳児用食品等を区分して長期的な観点から設定されたものですので、過剰な規制と消費段階での混乱を避けるため、自主検査においても食品衛生法の基準値(一般食品:100ベクレル/kg、牛乳及び乳児用食品:50ベクレル/kg、飲料水:10ベクレル/kg)に基づいて判断するよう併せて周知をお願いいたします。

<http://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/ryutu/pdf/kyoukucho.pdf>

5) 海外における日本製品の規制

諸外国の輸入に当たっての規制措置は、農林水産省のホームページに紹介されています。

(4月27日現在、但し、輸出に当たっては直接確認して下さい。)

[http://www.maff.go.jp/j/export/e\\_info/pdf/120427.pdf](http://www.maff.go.jp/j/export/e_info/pdf/120427.pdf)

農林水産物の輸出に関する証明書の発行についても、農林水産省のホームページに掲載されています。(4月18日現在) [http://www.maff.go.jp/j/export/e\\_shoumei/shoumei.html](http://www.maff.go.jp/j/export/e_shoumei/shoumei.html)

また、諸外国向け水産物の輸出証明の窓口も掲載されています。(4月23日現在)

[http://www.maff.go.jp/j/export/e\\_shoumei/pdf/ichiran\\_120423.pdf](http://www.maff.go.jp/j/export/e_shoumei/pdf/ichiran_120423.pdf)

#### 6. 「地溝油」製造の100人以上を逮捕（中国）

中国で、新しい型の「地溝油」製造した100人以上が逮捕されました（4月3日の中国日報網）  
廃棄動物性脂肪から作られ、警察当局は、3,200トン以上を押収したとのこと。「地溝油」の  
検証は不十分とされていますので、日本向けの加工食品に使用されないことを祈るだけです。

[http://www.chinadaily.com.cn/china/2012-04/03/content\\_14972493.htm](http://www.chinadaily.com.cn/china/2012-04/03/content_14972493.htm)

#### 7. EPAは、NRDCのAlum Glenn Paulson氏を科学アドバイザーに

EPAは、アメリカの最強の環境団体のNRDC（Natural Resources Defense Council）の初代  
科学顧問のAlum Glenn Paulson氏を科学アドバイザーにしたとのこと。

（4月25日付けのニューズリ・リリース <http://www.nrdc.org/media/2012/120424.asp>）

NRDCは、「クリーンエネルギーの創造」、「世界の海の復活」、「子どもを守る」と「飲料水  
を守る」等に取り組んでいます。

#### 8. 魚介類のプロメトリン（トリアジン系除草剤）

2012年3月8日、株式会社マルハニチロ食品は、同社が販売した下記の缶詰および冷凍食  
品において、あさりから基準値を超える農薬「プロメトリン（除草剤）」が検出されたとして、  
対象製品の自主回収を行うと発表しました。

【対象製品】：あさり水煮、シーフードミックス

#### 9. 輸入食品の特徴的な食品衛生法違反事例（2012年4月）特筆すべき事例のみ紹介します。

- ・丸美水産株式会社、邦華国際貿易株式会社、福岡県魚市場株式会社、金誠株式会社が中国から  
輸入した「あさり：活・生鮮・冷蔵」あるいは「活あさり」の命令検査あるいは自主検査で、  
食品衛生法第11条3項に基づき人の健康を損なうおそれのない量として定める量を超えてプ  
ロメトリンの残留（0.02～0.15ppm検出）が認められたとして、廃棄、積み戻し等が指示され  
ました。
- ・株式会社明治屋がオーストリアから輸入したブルーベリージャム（ブルーベリーの原産国：ポー  
ランド）の自主検査で、放射性セシウムが140～220Bq/kg検出による残留放射能基準超過と  
され、廃棄、積み戻し等が指示されました。

（作成：2012年4月27日）